

徳島赤十字乳児院

## 【基本理念】

私たちは、こどもたちが児童憲章のもと、その人権を重んじ、幸せになることを願い、よりよい養育環境の提供に努めます。

## 【基本方針】

- 1 こどもたち一人ひとりの思いを汲み取り、安心して生活できる環境を提供します。
- 2 こどもたちとのふれあいを深め、豊かな愛着関係を築きます。
- 3 こどもたちの体調の変化に留意し、健康管理に努めます。
- 4 こどもたちが家庭に戻り、安定した生活を送れるように支援します。
- 5 ボランティアや地域と連携し、養育の専門性を活かした子育て支援に努めます。
- 6 職員は、専門職としてのより深い知識と確かな技術を身につけます。

## I 運 営 方 針

深刻化する児童虐待、DV問題を背景に、乳児院や児童養護施設などの社会的養護関係児童福祉施設では、虐待を受けた子どもや障害がある子どもの増加、また、DV被害、精神疾患のある保護者への支援が喫緊の課題となっている。

そのために国は平成23年7月に「社会的養護の課題と将来像」を示し、複雑な社会的背景を持つ子どもや保護者に対応するため施設の専門機能の充実や家庭的な養育体制を図るため小規模化の推進、更には里親制度の促進等の指針が出されたところである。

当乳児院においても、この指針に基づき小規模グループでの養育体制の導入、心理療法担当職員や里親支援専門員等の配置、また、家庭での養育が困難な病虚弱児の受入体制の充実に努めたい。

また、全国では児童虐待に関する通報や事件の増加にともない乳児院への入所児は増加傾向にあるが、当乳児院では近年減少傾向が続いているため、児童相談所や市町村の子育て支援担当課との一層の連携を図り、要保護児童の実態の把握や支援体制の強化に努めたい。

さらに、日本赤十字社の社会福祉施設として、ボランティア活動の活性化や支部事業との連携等、組織力を活かした活動の展開にも努めたい。

## II 重 点 事 項

### 1 入所児童の養育体制の強化

#### (1) 小規模グループでの養育体制の充実

集団保育や交代制による養育は、心の発達への負の影響もあることから、1グループの養育単位を4人～6人とした小規模保育の導入を進めている。

小規模保育において、落ち着いた雰囲気の中で安定した生活リズムの中で養育担当者との継続的な愛着関係を築くことで、幼児期からの情緒、社会性、言語、豊かな感性の発達に努めたい。

平成26年度から、小規模保育3グループ体制を導入。

#### (2) 病虚弱児の受入体制の充実

核家族化や世帯の孤立化が進む中で、家庭での養育が困難な障害児や病虚弱児を児童養護施設でお預かりする事例が増えており、当乳児院においても受入体制の拡大に努めたい。

### (3) 機能強化のための専門職員の配置

特に支援が必要な保護者や家庭への対応等を専門的に行う家庭支援専門相談員の配置に加えて、虐待等の理由により心理療法が必要な児童に対する適切な援助等を行うための心理療法担当職員を配置し、各専門職員が連携し乳幼児や保護者等の支援強化に努めたい。

また、県の進める里親制度の支援を図るため里親支援専門相談員を配置し、入所児の里親委託の支援、また、登録里親の乳児院での養育研修の受入に努めたい。

## 2 子育て支援関係機関との連携強化

平成21年度に児童福祉法の一部改正が行われ、市町村が地域の子育て支援や養育相談等の窓口業務を行うこととなったが、特に支援を必要とする要保護家庭の乳幼児の支援について、当乳児院も市町村や児童相談所等と連携の強化をはかり、一層の養育支援に努めたい。

## 3 ボランティア活動の活性化

登録いただいている個人ボランティアや、乳児院でのボランティアを希望する方を対象とした研修会を行い、ボランティアの保育技術の向上に努めたい。

## 4 幼児安全法の普及

赤十字幼児安全法指導員を県内各地に派遣し、子どもの安全・安心に関する知識や技術を普及するとともに、赤十字運動への理解と協力拡大に努めたい。

## 5 発達障がい者総合支援ゾーン（ハナミズキ）での連携事業

発達障がい者総合支援ゾーンの一員として、徳島赤十字ひのみね総合療育センターや徳島県発達障がい者総合支援センター、徳島県立みなと高等学園と連携し、各種相談や児童の一時預り等、専門性を活かした支援に努めたい。

## 6 災害対応計画の強化

東日本大震災の教訓を踏まえ、非常用物資の備蓄を行い、入所児童や職員の安全確保に努めたい。

## 7 地域における公益的な活動の推進

社会福祉施設として、これまで培った知識、技能、ノウハウ等を地域の子育て支援に活用していただくため、乳児院の特性を活かした公益的な福祉サービス事業に一層努めたい。

(1) 子育て短期支援事業（ショートステイ）

保護者が社会的事由（疾病、出産、緊急の看護、事故災害、冠婚葬祭、転勤、出張及び学校等の公的行事への参加）により、一時的に養育が困難となった乳幼児を概ね7日間を限度としてお預かりする本事業を、地域の子育て支援活動として一層の推進に努めたい。

(2) 病児・病後児保育事業

病氣中や病氣の回復期にあつて、かつ保護者が養育できない場合に概ね10歳未満の児童を一時的に預かる事業を継続して推進する。

受入対象地域は東部地域定住自立圏の11市町村に拡充し、子育て中の保護者への周知拡大と充実したサービスの提供に努めたい。

(3) 子育てスペース「にこにこほっぺ」

事業開始以来、利用者から高い評価を得ている子育てスペース「にこにこほっぺ」について、更なる内容の充実を図り、子育てに不安や負担感を持つ保護者の支援に努めたい。

### Ⅲ 予 算 概 要

#### 歳 入 歳 出 予 算 総 括 表

##### 1 収入支出の合計

	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
収 入 合 計	311,266 <sup>千円</sup>	347,455 <sup>千円</sup>	△ 36,189 <sup>千円</sup>	△ 10.4 <sup>%</sup>
支 出 合 計	257,376	305,778	△ 48,402	△ 15.8

収入支出差引額 53,890千円

##### 2 事業活動による収入及び支出

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
児 童 福 祉 事 業 収 入	214,596 <sup>千円</sup>	200,660 <sup>千円</sup>	13,936 <sup>千円</sup>	6.9 <sup>%</sup>
措 置 費 収 入	207,621	194,370	13,251	6.8
私 的 契 約 利 用 料 収 入	420	570	△ 150	△ 26.3
補 助 金 事 業 収 入	180	120	60	50.0
受 託 事 業 収 入	6,375	5,600	775	13.8
経 常 経 費 寄 附 金 収 入	100	200	△ 100	△ 50.0
そ の 他 の 収 入	4,900	3,280	1,620	49.4
収 入 計	219,596	204,140	15,456	7.6
人 件 費 支 出	213,119	250,562	△ 37,443	△ 14.9
事 業 費 支 出	17,870	16,443	1,427	8.7
事 務 費 支 出	12,759	12,325	434	3.5
支 出 計	243,748	279,330	△ 35,582	△ 12.7

##### 3 施設整備等による収入及び支出

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
施 設 整 備 等 に よ る 収 入	0 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	— <sup>%</sup>
収 入 計	0	0	0	—
施 設 整 備 等 に よ る 支 出	0	0	0	—
支 出 計	0	0	0	—

#### 4 その他の活動による収入及び支出

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
他 会 計 繰 入 金 収 入	3,000 <sup>千円</sup>	3,000 <sup>千円</sup>	0 <sup>千円</sup>	0.0 <sup>%</sup>
拠点区分間繰入金収入	0	3,300	△ 3,300	△ 100.0
その他の活動による収入	18,670	54,015	△ 35,345	△ 65.4
収 入 計	21,670	60,315	△ 38,645	△ 64.1
積 立 資 産 支 出	1,000	1,000	0	0.0
他 会 計 繰 入 金 支 出	131	1	130	13,000.0
拠点区分間繰入金支出	0	20,000	△ 20,000	△ 100.0
その他の活動による支出	10,497	3,447	7,050	204.5
支 出 計	11,628	24,448	△ 12,820	△ 52.4

#### 5 当期末支払資金残高

科 目	平成27年度 予 算 額	平成26年度 予 算 額	増 減	伸 び 率
事業活動資金収支差額	△ 24,152 <sup>千円</sup>	△ 75,190 <sup>千円</sup>	51,038 <sup>千円</sup>	△ 67.9 <sup>%</sup>
施設整備等資金収支差額	0	0	0	—
その他の活動資金収支差額	10,042	35,867	△ 25,825	△ 72.0
予 備 費 支 出	2,000	2,000	0	0.0
当期資金収支差額合計	△ 16,110	△ 41,323	25,213	△ 61.0
前期末支払資金残高	70,000	83,000	△ 13,000	△ 15.7
当期末支払資金残高	53,890	41,677	12,213	29.3